



「京やましろ新鮮野菜」売れ行き好調!

ロゴマーク(左図)を貼付した「京やましろ新鮮野菜」は、7月下旬から山城地域内の大型スーパー等で販売が始まりました。

この取組は、生産履歴の開示や新鮮で美味しい野菜生産の努力や工夫を行っている等の要件を満たす生産者を登録するとともに、販売協力してもらえる販売店を登録し、山城産野菜等の知名度を向上させながら、積極的に販売していく目的で実施されています。

今後さらに登録生産者と販売店を増やし、「京やましろ新鮮野菜ロゴマーク」を新鮮・安心・美味しいの目印として販売拡大していきます。



やましろ

2013年10月

第16号



普及センターだより

山城地域の出品茶が好成績、高品質茶産地をPR

～ 全国茶品評会が京都で開催されました ～



第67回全国茶品評会が15年ぶりに京都府で開催されました。また、第66回関西茶品評会が奈良県で開催されました。

両品評会において、山城地域から出品されたお茶が、以下のとおり受賞し、生産農家の卓越した高い技術と、当地域が高品質な宇治茶産地であることをあらためてPRできました。

これは産地全体が一丸となり取り組んできた成果です。今後もこれらの取組をいっそう推進することにより、宇治茶産地としてのさらなる発展が期待されます。

☆全国茶品評会成績

農林水産大臣賞

てん茶	山崎省吾氏(宇治市)
玉露	小林治氏(京田辺市)

産地賞

てん茶	宇治市
-----	-----

入賞された皆様 おめでとうございます

☆関西茶品評会成績

農林水産大臣賞

てん茶	山崎省吾氏(宇治市)
玉露	林昭氏(京田辺市)

産地賞

てん茶	宇治市
玉露	京田辺市

< 第67回 全国お茶まつり京都大会のお知らせ >

全国の茶生産技術の向上と茶の魅力発信のため、宇治市をメイン会場として、全国お茶まつりが開催されます。主なイベントは次のとおりです。

- ・11月16日 全国お茶まつり京都大会2013大会式典(宇治市文化会館)
- ・11月16日、17日 宇治茶の魅力発信イベント(宇治市一円)
- ・11月17日 平成の北野大茶会(京都市北野天満宮)

新規就農をめざせ ～インターンシップ開始!!～



山城地域の新たな担い手を確保するため、訓練農地の提供を受けて栽培・経営の実践研修を行う「やましろ担い手農家養成インターンシップ」を開始しました。

この取組は、指導農家と新規就農希望者が研修契約等を結び、農家の指導を受けながら実践的な農業の訓練を行うことで、地域の信頼を得て農地や農機具の確保につなげることを目的としています。

今回研修を開始するのは、藤澤智行さん(京田辺市在住)。JA京都やましろ京田辺茄子園芸部会川嶋会長の指導を受けて、なす、えびいもの栽培に日々頑張っておられます。

直売所紹介

あいさいかん 愛菜館:開設10年を超えて発展中

愛菜館は精華町の南西部の国道163号線沿いにあり、大阪府や奈良県との府県境に近い直売所です。JR祝園駅前にある姉妹店「グリーンマーケット精華」と共に平成12年12月にオープンした老舗です。現在、両店併せて約230名の会員で運営さ



れています。近年、来客数、販売額が伸びており、平成24年には初めて1億円を達成しました。

店頭には、米や野菜だけでなく、漬物、味噌、ジャム、かき餅などの農産加工品や花苗も地元産が多く揃っています。夏から冬にかけては、ほぼ毎月、スイカ、枝豆、新米などのフェアが開催されて賑わっています。

お客様の要望を取り入れて黒大豆枝豆の栽培を増やすなど、品揃えの充実と併せて消費者ニーズへの対応が、来客数や販売額のアップの秘訣のようです。

～築いていこう 男女共同参画社会～

京都府山城北農業改良普及センター

〒610-0331 京田辺市田辺明由1 TEL.0774-62-8686

京都府山城南農業改良普及センター

〒619-0214 木津川市木津上戸18 TEL.0774-72-0237

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/fukyu/karadouso>

気候変動に強い茶園づくり

茶樹の生育と季節の移ろいに合わせた茶園管理をしましょう!

○凍害・凍霜害

【秋整枝・摘心】

機械摘み茶園では、生育が停止する10月中旬前後に、秋整枝を行う。気象や品種に応じて実施する。

早いと再萌芽し、遅いと樹冠面が寒さに慣れず、障害を受けやすい。枝条がよく伸びている場合、整枝の1~2週間前に、予定の高さから10cm程度上で仮整枝しておくこと日焼けを抑えられる。

自然仕立て園では、生育が停止する10月末から11月上旬に、頂芽から3葉目で摘心する。

【施肥】

10月中を目処に施肥を終え、窒素成分の遅効きを避ける。

【保温】

幼木園では、敷き草をする。うね間には何も敷かず地温を上げる。

【春整枝】

冬季の冷え込みが強く、一番茶に影響があるような機械摘み茶園では、秋整枝を行わず、3月半ばまでを目処に、春整枝をする。なお、枝条がよく伸びた場合、秋整枝の時期に、春整枝予定の10cm程度上で仮整枝すると、冬季の水分蒸散を減らせる。ただし、春整枝は秋整枝と比べて、一番茶が数日遅れる、芽揃いがよくない等のデメリットがある。また、春整枝後は、通常の防霜が必要である。

【更新と被覆】

中切り等の強度の剪枝は二番茶新芽の生育期までに行う。また、強度の被覆を8月まで続けないようにする。更新や被覆の撤去が遅いと秋季までの充実が足りず枝条が軟弱になり、凍害や寒害を受けやすい。

【品種選択】

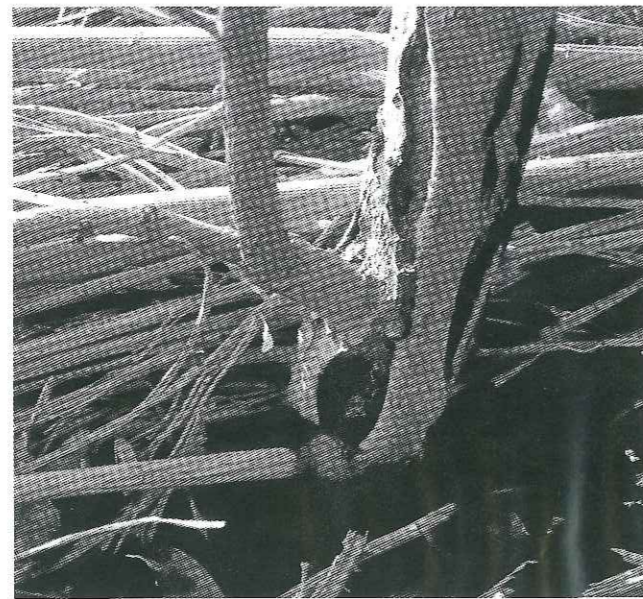
改植の際、凍害や晩霜被害の多い場所では、これらの障害に弱い品種を避ける。

○大雨（湿害等）

定植前に、暗渠を整備する。茶園上部又は周囲に明渠を設け、雨水の流入を防ぐ。排水溝の詰まりを直し、排水をよくする。

○高温・干ばつ

夏季が高温・乾燥の時には、深い剪枝をしない。敷き草により、地温の上昇と乾燥を防ぐ。被覆棚があれば、寒冷紗を筋掛けする。被覆資材の撤去は、9月の曇天に合わせて行う。点滴できる場合、3トン/10a(チューブがうねの片側だけの時は1.5トン)を目安に、数日に1回、かん水する。適期に深耕しておく等、有効土層を確保する。排水をよくして湿害を防ぎ、深い根を保つ。

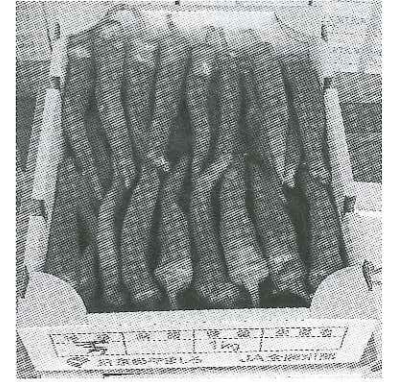


裂傷型凍害：肥料が遅効きすると、凍害や寒害が起こりやすい。

*ご質問・ご相談は普及センターにお寄せください。

万願寺とうがらし栽培のポイント

万願寺とうがらしは山城地域で生産拡大が図られ、平成25年度には栽培面積が約2.3haとなりました。栽培には事前の準備と初期の管理が大切ですので、以下のポイントを押さえて、次年度の栽培を心掛けてください。



○定植前に

ハウス周囲に排水溝等の整備を行い、排水を良くする。地下水位の高いハウスでは高畝にする。

定植7日前までにかん水した後、ハウスを密閉して温度を上げておく。

定植前日の午前中には植え穴にかん水する。

定植は、鉢の上面が出るように浅く植える。

活着確認後、7日目程度で仮支柱を立て、茎を締め付けないようにヒモで8の字にくり、固定する。

温度計を設置し、35℃以上になる時は、南側側面を開けて換気する。

温度計を設置し、35℃以上になる時は、南側側面を開けて換気する。

○定植後は

定植後7~10日間、ハウスを閉めて蒸し込む。畝を不織布(パオパオ等)でトンネル被覆し保温を図る。

活着して苗の葉先に水滴が付くようになれば、かん水を控えて25~30℃に管理する。



整枝・誘引直後の万願寺とうがらし

○整枝・誘引・摘果

支柱・誘引線の設置を遅れずに行い、分枝が2.5cm程度に伸びたら、4本の枝をV字に誘引する。

第3果が3cm程度になる頃から、分枝より下の脇芽を取り除いていく。以後もV字内部から出る強い枝や不要な枝は、順次取り除き、採光と風通しをよくする。

生育不良果、曲がり果、変形果等の不整形果実は早めに取り除く。



不織布で被覆した万願寺とうがらし

草刈り機を安全に使用しましょう!

草刈り機の事故が多発しています。

草刈り機を使用する時は、以下のことに十分注意しましょう。

- ① 長袖の作業服とフェイスガード等を必ず装備する
- ② 作業前に草刈り機の点検をする
- ③ 作業時は半径10m以内に人を近づけない
- ④ 刈り取りは右から左に行う
- ⑤ まきついた草は必ずエンジンを止めてから取り除く



「日本茶のふるさと、宇治茶を世界遺産に」

~農薬を安全に正しく使いましょう~

~余裕のある作業で、事故を防ぎましょう~